

誰が和諧社会を望んでいるのか？：天津市調査からの知見

園田茂人

(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授)

2004年の共産党第16期中央委員会第4回総会で和諧社会の実現が政策目標として掲げられてから4年強の月日がたつ。格差の深刻化や各種陳情の増加など、和諧社会の実現を政策目標にすべき「客観的」状況はあるものの、果たして、これらの政策の対象となる人々がどのような指向や願望をもち、誰が格差解消のための政策を望んでいるのか？

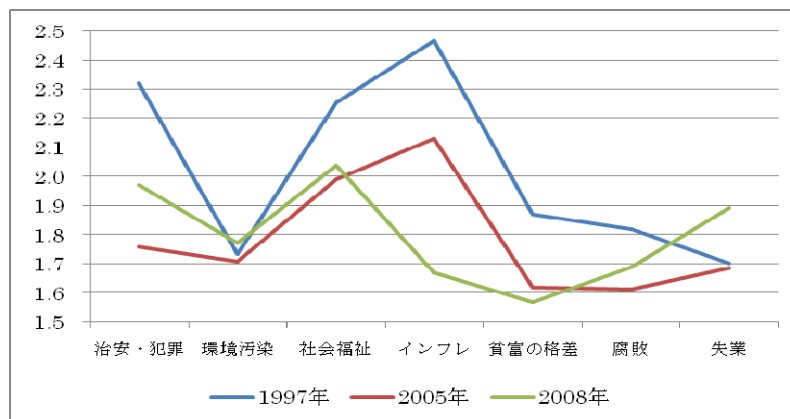
本報告では、われわれが1997年から天津市で行ってきた調査の時系列データを利用することによって、これらの問いに答えたい。

*

1997年、2005年、2008年の3時点で、ほぼ1000名（2008年のみ900名）の市民を対象にした調査からは、貧富の格差の深刻化を指摘する声が強くなっていることを読み取ることができる。

図1は、「以下の社会問題を深刻だと思うか」という問いに対して、「1. 大変深刻だ」から「5. まったく深刻でない」まで5点スコアを付けてもらった上で、各時点の平均値をプロットしたものである。スコアが低いほど深刻だと思われることを示しているが、1997年時点では環境汚染や失業の方が深刻だと思われていたのが、2005年、2008年と、そのスコアが他の項目に比べても低くなっていることから、貧富の格差が大きな社会問題であると認識されていることがわかる。

図1 以下の社会問題を深刻だと思うか



(注) スコアは1から5まで。スコアが低いほど深刻だと思われることを示す。

また収入格差に関しても、徐々に「是正すべきだ」とする意見が強くなっている。図2は「現在我が国における収入格差は大きすぎる」、図3は「今後、我が国で収入格差が拡大してもよい」という文言に対する回答をそれぞれ2005年と2008年で比較した見たものだが、格差に対する現状認識だけでなく、格差拡大への許容性も、この3年ほどの間に少なくなっている様子を見て取ることができる。

図2 現在我が国における収入格差は大きすぎる

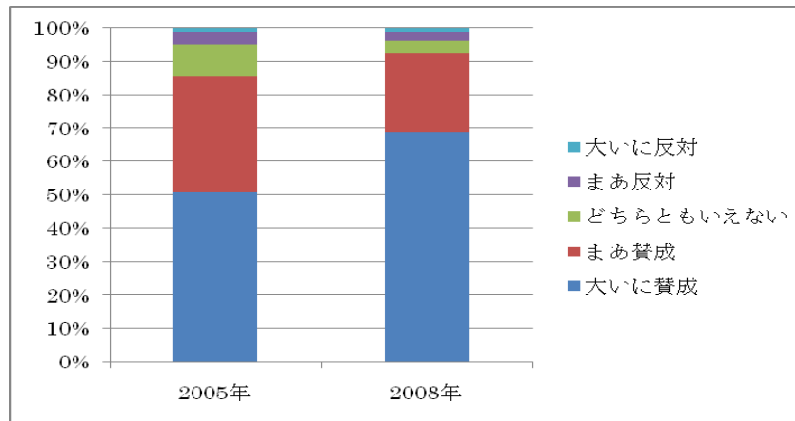
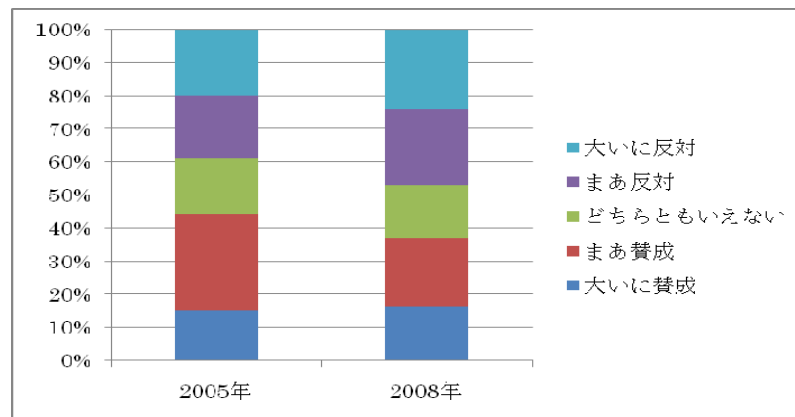


図3 今後、我が国で収入格差が拡大してもよい



2008年調査で、「政府はできるだけ貧富の格差を縮めるようにすべきだ」とする文言に対する態度を初めて質問したが、「おおいに賛成」が59.6%、「まあ賛成」が32.1%と9割以上の回答者が賛成していることも、都市住民の収入格差に対する敏感さを傍証している。

もっとも一見して、これと矛盾しているように思える現象も生じている。都市住民の農民に対する視線が以前よりも厳しくなっているのである。

図4は、「農業人口と都市住民の身分差別をなくすべきだ」とする文言に対する意見を時系列的にまとめてみたものだが、1997年から2008年にかけて「まったくそうだ」と「まあ

「そうだ」という回答の割合が減り、「どちらともいえない」という中間的回答が増えていることがわかる。

同様の傾向は、「制度的に、都市住民の方が農民よりも国家の保護を受けている」「外来人口に対しては、その数量を厳しくコントロールすべきだ」といった文言に対する回答に現れており、都市へ流入してくる外来人口に対して、この3年ほどの間に厳しい意見にシフトするようになっている。都市／農村の収入格差が拡大しているにも関わらず、である。

では、なぜそのような逆説的な事態が起きているのか。都市部における階層化の進行が、こうした矛盾を解く一つのカギになる、と報告者は考えている。都市部で富裕化が起こり、どの階層でも豊かになっているはいえ、その恩恵が少ないと感じる人々の中に「中の下」「下」という階層意識をもつ割合が増えており（園田，2008）、こういった人びとが貧富の格差を是正すべきだと考えつつも、農村からの人口流入に対して敵対的な考え方を持つようになってきているのである

図4 農業人口と都市住民の身分差別をなくすべきだ

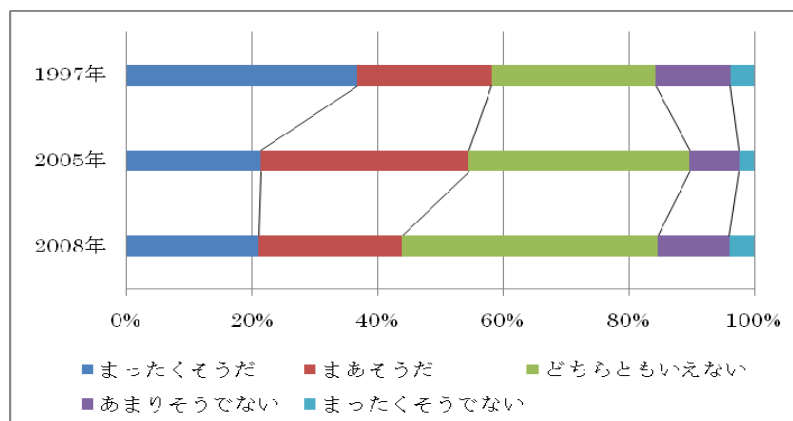
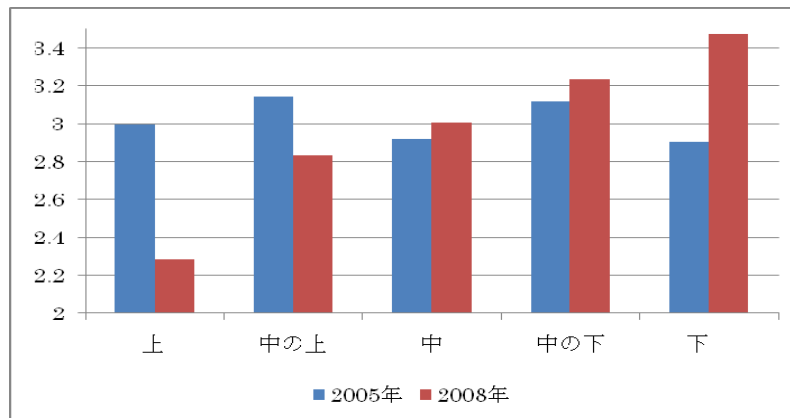


図5と図6は、それぞれ図3、図4の回答を階層帰属別にまとめたものを2時点で比較したものであるが、収入格差に関していえば、2005年時点では階層帰属によってさほど大きな意見の違いが見られなかった——それどころか、「中の上」と回答した者で一番収入格差の拡大に対して批判的だった——のが、2008年には大きな意見の違いを生むようになってきている。

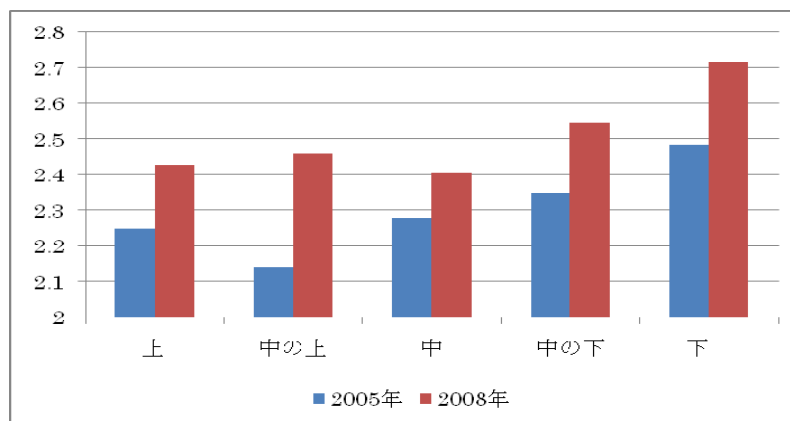
図5 「今後、我が国で収入格差が拡大してもよい」とする考え方への階層帰属別の反応



(注) スコアは1から5まで。スコアが低いほど賛成と思っていることを示す。

また、都市と農村の格差についても、「中の下」や「下」といった階層帰属をもつ人びとの中にはさほど大きくないと考える傾向が見られ、この点では、この3年ほどの間に変化が見られない。

図6 「農業人口と都市住民の身分差別をなくすべきだ」とする考え方への階層帰属別の反応



(注) スコアは1から5まで。スコアが低いほど賛成と思っていることを示す。

*

中国での階層化の進行については、多くの研究者の指摘する通りだが、本報告が示すように、階層化の進行は和諧社会の実現という政策目標の重要性認識をめぐっても、階層間の違いが存在している。

政府がどのような階層の利益を代表することになるのか。和諧社会の実現という課題は、中国における階層化の進行という趨勢を背景にして、初めて理解することができるのである。

【文献】

園田茂人, 2008, 『不平等国家 中国』中公新書.